Title		itory of Academic resouces
Author 津田、真っ(Tsuda, Mayumi) Publisher 慶應業数大学 Publication year Jittle 学事振興宣金研究成果実験報告書 (2021.) Abstract 学事振興宣金研究成果実験報告書 (2021.) # 業計画に従って、今年度は、黄表紙の絵・文の特質について考えた。成果は以下の通り。 1、所蔵機関が公開するデジタル画像を使ったデータベースの設計を行った。このデータベースの目指すところは、研究成果を慮り込み、かっこのジャンルの絵や文章を適度的に見るツールとなる形である。今後も引き継ぎデータベースの形を模索したい。 2、佐藤至子・ラウラモレッティ精帯の輸放集に対して、黄表紙の詩・社と文章の表現方法で、人佐藤至子・ラウラモレッティ精帯の輸放集に対して、黄表紙の詩・社と文章の表現方法で、大き紙の特性の場合とれる紙面の構造、作品の構造、次の時代の様式との違いについて述べ、特に、黄表紙の音化の合物である明るく楽しい作風の理由を同時代の文学型派に基づいて指摘した。(出版時期は2023~3年程度を予定) 3、ライデン大学における画際的ワークショップ「Healing the People-Popularizing and Printing Medicine in Edo Japani,(コーティネータ・・アンジェリカコッホ)にて「預慮絵本が出版される時・上途舎一か「軽し場」の目版がら考える可能性」と超する果装を行う。申請等には、2021年夏に開催されるはずたったが発表会が、新型コロナウイルスの流行により、2022年5月に延期されることとなった。従って本成果報告時には、まだ発表を終えていないが、発表系精・スライドは準備済みである。具体的には、十返金一九が様以上の経療(天然程)の要素への見楽いの品として作られた掲憶絵本「整に鳴・の再版状況から、麻疹場だらの問わり、汲斎英泉子に近期されることとなった。従って本成果報告時には、まだ発表を終えていないが、発表系精・スライドは準備済みである。ま体の研究で指摘性と明寺されていたものが、悪虚かに対して経験に対した。して作られた掲憶絵本「整に鳴・の再版技術と明されている形別国芳の「為朝と短途」について、従来の研究で指摘性と明寺されていたものが、悪虚かと一般を持たしました。これ会ので内のでから、海底衛を指しに対しているのよりに対している場が、自然の表情によりではいるがはいまから、カースのでのでから、神経のでは、中枢が表情によります。中枢が表情によります。中枢が表情が表情によります。中枢が表情が表情が表情が表情が表情が表情が表情が表情が表情が表情が表情が表情によっているのでは、中枢が表情が表情が表情が表情が表情が表情が表情が表情が表情が表情が表情が表情が表情が	Title	絵と文による表現から再考する草双紙史 : 黄表紙と合巻
Publisher 更應整大学 Julic OOI Abstract 学事無興責金研究成果実験報告書 (2021.) Abstract 事業計画に従って、今年度は、黄表紙の絵・文の特質について考えた。成果は以下の通り、1、所蔵機関が公開するデジタル画像を使ったデータベースの設計を行った。このデータベースの目指すところは、研究成果を盛り込み、かっこのジャンルの絵や文章を通史的に見るツールとなる形である。今後も過ぎ続きデータベースの形を構索したい。 2、佐藤至子・プウラ・モレッティ編者の前次に対して、実体にの場では、東表紙の画風の変選、一般に複雑とされる瓶面の構造、作品の構造、次の時代の様式との違いについて述べ、特に、青素紙の特徴である利をあるく楽しい作風の理由を同時代の文学思順に基づいて対域、(出版時期は2023~24年頃を予定)。 3、ライデン大学における国際的ワークショップ「Healing the People:Popularizing and Printing Medicine in Edo Japan」(コーディネータ・アンジェリカコッホ)にて「態度絵本が出版される時・ドルスの造行により、2022年5月に延期されることとなった。従って本成果報告時によ。まだ発表を終えていないが、発表原稿、スプトドは本機済みである。異体的には、十起る一力が作成した疱瘡(天成田)の患者への見類の回りた。大阪海では、大阪海で海では、大阪海で海で海で海では、大阪海で海で海で海で海で海で海で海で海で海で海で海で海で海で海で海で海で海で海で	Sub Title	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
### Publication year Jalc DOI ### Past	Author	津田, 眞弓(Tsuda, Mayumi)
Jutile 学事振興資金研究成果実績報告書 (2021.) Abstract Abstract 来業計画に従って、今年度は、黄表紙の絵、文の特質について考えた。成果は以下の通り。 1、所戴機剛が公開するデジタル画像を使ったデータベースの設計を行った。このデータベースの 目指すところは、研究根果を盛り込み、かつこのジャンルの絵や文章を通史的に見るツールとな る形である。今後も引き続きデータペースの形を模索したい。 2、佐藤至子・プウラーエレッティ編書で前数に対して、実板の特では、表表紙の画風の変 選、一般に複雑とされる紙面の構造、作品の構造、次の時代の様式との違いについて述べ、特に 、実表紙の特徴である明るく楽しい作風の理由を同時代の文学思瀬に基づいて指摘した。(出版 時期は2023~24年頃を予定) 3、ライデン大学における国際的ワークショップ「Healing the People Popularizing and Printing Medicine in Edo Japan」(コーディネータ・・アンジェリカ コッホ)にて「海癒絵本が出版され る時・十返音・九、「軽口垢」の再版がら考える可能性」と指する発表を行う。中語時には、2021年度 民間権されるはずんった研究発表会が、新型コロナウイルスの流でより、2022年5月に延期されることとなった。役って本成果報告時には、まだ発表を終えていないが、発表原植、スライドはは常備済みである。具体的には、北透色・力が作成した結婚(テス後)の患者への異似の恐として結婚・デミ山、の出版中の修正、循胞に効とされた相様向方が音との関わりの異似の恐として結婚・デミ山、の出版中の修正、循胞に効とされた半田稲荷の行きとの関わりの異性と影響を担当した結婚・デミ山、の工作の状態を指述とびませ絵として近く知られている歌川国芳の「為報と海艦神」について、従来の研究で痕様やと眺げされていたものが、罹患した子供であることを示し、通能に対する繊維を提示した。 In accordance with the project plan, this year I considered the characteristics of the illustrations and text of kibyổshi (the yellow cover books). The results are as follows. 1. I designed a database using digital images made available by the holding institutions. The goal of this database is to incorporate research results and to provide a tool for viewing illustrations and texts of this genre's expression through both illustrations and texts of the segment of the work, and the differences in style over time. In particular in pages made available by the holding institutions. The goal of this database is to incorporate research results and to provide a tool for viewing illustrations and texts of this genre's expression through both illustrations and texts fit is genre's expression through both illustrations and texts fit is genre's expression through both illustrations and texts fit is genre's expression through both illustrations and texts fit is genre's expression through to the work and the differences in style over time. In particular propions to the reasons for the bright and joyful style characteristic of kibyőshi, based on the literary thought of the same period.	Publisher	慶應義塾大学
#実計画に従って、今年度は、黄表紙の絵・文の特質について考えた。成果は以下の通り。 1. 所蔵機関が公開するデジタル画像を使ったデータベースの設計を行った。このデータベースの目指すところは、研究成果を盛り込み、かっこのジャンルの絵や文章を通史的に見るツールとなる形である。今後も引き続きデータベースの形を模索したい。 2. 佐藤至子・デウラーモレッティ編書の論文集に対して、黄表紙の持つ絵と文章の表現方法について考えた。成果はかにでいる。今後も引きたい。 2. 佐藤至子・デウラーモレッティ編書の論文集に対して、黄表紙の持つ絵と文章の表現方法について考えた。前とである明るく楽しい作風の理由を同時代の文学思潮に基づいて指摘した。(旧別時期は2023~24年頃を予定)。 3. ライデン大学における国際的ワークショップ「Healing the People:Popularizing and Printing Medicine in Edo Japan』(コーディネーター・アンジェリカコッホ)にて「殖儀絵本が出版される時・十坂舎一九・「軽口噺」の用版から考える可能性」と関する発表を行う。中語時には、2021年夏に開催されるはずんこの研究表会が、新型コロナウイルスの流行により、2022年9月に延期されることとなった。従って本成果報告時には、まだ発表を終えていないが、発表原籍、スライドは、英橋線スである。見み的には、十坂舎一九が作成した宿瘡(天然園、の患者への見思いの品として作られた疱瘡絵本「軽口噺」の画版状況から、麻疹流行との関わり、渓斎英泉が絵を担当した終編「子宝山」の出版年の修正、施稿にかいて、世帯の代ので手をの関わりの可能性を指摘した。またでの再分も、疱瘡神を指した浮世絵として広く知られている歌川自芳の「冷楽技術」し、表述に対する軽さを提示した。 In accordance with the project plan, this year I considered the characteristics of the illustrations and texts of this gener form an historical perspective. I will continue to export the form of the database is to incorporate research results and to provide a tool for viewing illustrations and texts of this gener form a historical perspective. I will continue to export the form of the database in the future. 2. I submitted a chapter entitled "Multimodallity at work Kibyôshi," which discusses the kibyôshi gener's expression through both illustrations and texts of this gener form a historical perspective. I will continue to export the form of the database in the future. 2. I submitted a chapter entitled "Multimodallity at work Kibyôshi," which discusses the kibyôshi gener's expression through both illustrations and texts of this gener form a historical perspective. I will continue to export the form of the database in the future. 2. I submitted a chapter entitled "Subject Historica and Perital Perspetation of the sequel Vipulacia Scate August in Millustration and texts. The content of the paper describes the changes in kibyôshi's illustration style, the structure of the papers, which is generally considered complex, the structure of the work	Publication year	2022
Abstract 事業計画に従って、今年度は、黄表紙の絵、文の特質について考えた。成果は以下の通り、1、所蔵機関が公開するマジタル画像を使ったデータベースの設計を行った。このデータベースの目前すところは、研究成果を盛り込み、かつこのプシャンルの絵や文章を通史的じ見あツールとなる形である。今後も引き続きデータベースの形を模象したい。 2、佐藤至子・ラウラーモレッティ構造物能では、次の時代の様式との違いにつび述べ、特に、黄表紙の画風の変選、一般に繊化される紙面の構造、作品の構造、次の時代の様式との違いにつび述べ、特に、黄表紙の画風の変選、一般に繊化される紙面の構造、作品の構造、次の時代の様式との違いにつび述べ、特に、黄表紙の特別である明るく楽しい作風の理由を同時代の文学思潮に基づいて指摘した。(出版時期は2023~24年頃を予定)。 3、ライデン大学における国際的ワークショップ「Healing the People-Popularizing and Printing Medicine in Edo Japan」(コーディネーター・アンジェリカコッ木)にて「焙瘡絵本が出版される時・128~力、128~128~128~128~128~128~128~128~128~128~	Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2021.)
1、所蔵機関が公開するデジタル画像を使ったデータベースの設計を行った。このデータベースの目指すところは、研究成果を盛り込み、かったのジャンルの絵や文章を通史的に見るツールとなる形である。今後も引き続きアータベースの形を模索したい。 2、佐藤至子・プワラモレッティ編者の論文集に対して、黄表紙の持つ絵と文章の表現方法について考文に論文でMultimodality at work Kibyošni。を提出した。具体的には、黄表紙の画風の変遷、一般に複雑とされる紙面の構造、作品の構造、次の時代の様式との違いについて述べ、特に、青素紙の特徴である明るく楽しい作風の理由を同時代の文学思潮に基づいて指摘した。(出版時期は2023~24年頃を予定) 3、ライデン大学における国際的ワークショップ「Healing the People-Popularizing and Printing Medicine in Edo Japan」(コーディネータ・: アンジェリカコッホ)にて「痕瘡絵本が出版される時・形返舎」九「経口噺」の再版から考える可能性」と腹する発表を行う。申請時には、2021年夏に開催されるはずだった研究発表をが、新型コローナウィルスの流行により、2021年夏に開催されるはずだった研究発表をが、新型コローナウィルスの流行により、2021年夏に開催されるはずだった研究発表をが、新型コローナウィルスの流行により、2015年夏に開始されることとなった。従って本成果報告時には、まだ発表を終えていないが、発表原稿・スライドは準備済みである。具体的には、十返舎・カイ作成した発症(天然症)の患者への見類いの品として作られた飛瘡絵本「軽口噺」の再版状況から、麻疹流行との関わり、深鏡を変えが絵を担当した続編『子宝山』の出版年の修正、癌瘡に効くとされた半日稲荷の行事との関わりの可能性を指摘した。またその内容から、振瘡神を描した子供のよのでいたものが、罹患した子供であることを示し、通説に対する蝦養を提示した。 In accordance with the project plan, this year I considered the characteristics of the illustrations and text of kibyošhi (the yellow cover books). The results are as follows. 1,1 designed a database using digital images made available by the holding institutions. The goal of this database is to incorporate research results and to provide a tool for viewing illustrations and text of kibyošhi (the yellow cover books). The results are as follows. 1,1 designed a database using digital images made available by the holding institutions. The goal of this database is to incorporate research results and to provide a tool for viewing illustrations and texts of this genre from a historical perspective. I will continue to explore the form of the database in the future. 2, I submitted a chapter entitled "Multimodality at work Kibyōšhi, "which discusses the kibyōšhi genre's expression through both illustration and texts. The content of the paper describes the changes in kibyōšhi's illustration splus the propinal kiku as a gift for patients with smalloyx, though of the same period. (Anthology of research papers "The kusazošhi volume" edited by Yukiko Sato and Laura Moretti. Publication	JaLC DOI	
complex, the structure of the work, and the differences in style over time. In particular, the paper points out the reasons for the bright and joyful style characteristic of kibyōshi, based on the literary thought of the same period. (Anthology of research papers "the kusazōshi volume" edited by Yukiko Sato and Laura Moretti. Publication date is scheduled for around 2023-24.) 3, Presentation entitled "Smallpox Illustrated Books and Their Publication — What we can learn from Jippensha Ikku's Karuguchibanashi " at the international workshop "Healing the People: Popularizing and Printing Medicine in Edo Japan" at Leiden University (coordinator: Angelica Koch. Postponed to May 2022 due to coronavirus). Based on the status of the reprinting of the smallpox illustrated book "Karuguchibanashi" created by Jippensha Ikku as a gift for patients with smallpox, the presentation pointed out the publication's relation to the measles epidemic, the correction of the publication date of the sequel "Kodakarayama" with illustrations by Keisai Eisen, and its possible relation to events at Handa Inari Shrine, which were believed to be effective against smallpox. In addition, regarding Utagawa Kuniyoshi's "Tametomo and the God of Smallpox," which is widely known as an ukiyoe picture print depicting the god of smallpox, I showed from the contents of this "Karuguchibanashi" that what had been described as the god of smallpox in previous studies, in fact was a child who had contracted the smallpox disease.		1、所蔵機関が公開するデジタル画像を使ったデータベースの設計を行った。このデータベースの目指すところは、研究成果を盛り込み、かつこのジャンルの絵や文章を通史的に見るツールとなる形である。今後も引き続きデータベースの形を模索したい。 2、佐藤至子・ラウラ モレッティ編著の論文集に対して、黄表紙の持つ絵と文章の表現方法について考察した論文「Multimodality at work Kibyōshi」を提出した。具体的には、黄表紙の画風の変遷、一般に複雑とされる紙面の構造、作品の構造、次の時代の様式との違いについて述べ、特に、黄表紙の特徴である明るく楽しい作風の理由を同時代の文学思潮に基づいて指摘した。(出版時期は2023〜24年頃を予定) 3、ライデン大学における国際的ワークショップ「Healing the People:Popularizing and Printing Medicine in Edo Japan」(コーディネーター:アンジェリカコッホ)にて「疱瘡絵本が出版される時ー十返舎一九『軽口噺』の再版から考える可能性」と題する発表を行う。申請時には、2021年夏に開催されるはずだった研究発表会が、新型コロナウイルスの流行により、2022年5月に延期されることとなった。従って本成果報告時には、まだ発表を終えていないが、発表原稿・スライドは準備済みである。具体的には、十返舎一九が作成した疱瘡(天然痘)の患者への見舞いの品として作られた疱瘡絵本『軽口噺』の再版状況から、麻疹流行との関わり、渓斎英泉が絵を担当した続編『子宝山』の出版年の修正、疱瘡に効くとされた半田稲荷の行事との関わりの可能性を指摘した。またその内容から、疱瘡神を描いた浮世絵として広く知られている歌川国芳の「為朝と疱瘡神」について、従来の研究で疱瘡神と説明されていたものが、罹患した子供であることを示し、通説に対する疑義を提示した。In accordance with the project plan, this year I considered the characteristics of the illustrations and text of kibyōshi (the yellow cover books). The results are as follows. 1、I designed a database using digital images made available by the holding institutions. The goal of this database is to incorporate research results and to provide a tool for viewing illustrations and text of kibyōshi (the yellow cover books). The results are as follows. 1、I designed a database using digital images made available by the holding institutions. The goal of this database is to incorporate research results and to provide a tool for viewing illustrations and text of kibyōshi (the yellow cover books). The results are as follows. 1、I designed a database using digital images made available by the holding institutions. The goal of this database is to incorporate research results and to provide a tool for viewing illustrations and text of kibyōshi (the yellow cover books). The results are as follows. 1、I designed a database using digital images made available by the holding institutions and texts of this genre from a historical perspective. I will continue to explore the form of the database in the future.
Notes		changes in kibyōshi's illustration style, the structure of the pages, which is generally considered complex, the structure of the work, and the differences in style over time. In particular, the paper points out the reasons for the bright and joyful style characteristic of kibyōshi, based on the literary thought of the same period. (Anthology of research papers "the kusazōshi volume" edited by Yukiko Sato and Laura Moretti. Publication date is scheduled for around 2023-24.) 3, Presentation entitled "Smallpox Illustrated Books and Their Publication — What we can learn from Jippensha Ikku's Karuguchibanashi " at the international workshop "Healing the People: Popularizing and Printing Medicine in Edo Japan" at Leiden University (coordinator: Angelica Koch. Postponed to May 2022 due to coronavirus). Based on the status of the reprinting of the smallpox illustrated book "Karuguchibanashi" created by Jippensha Ikku as a gift for patients with smallpox, the presentation pointed out the publication's relation to the measles epidemic, the correction of the publication date of the sequel "Kodakarayama" with illustrations by Keisai Eisen, and its possible relation to events at Handa Inari Shrine, which were believed to be effective against smallpox. In addition, regarding Utagawa Kuniyoshi's "Tametomo and the God of Smallpox," which is widely known as an ukiyoe picture print depicting the god of smallpox, I showed from the contents of this "Karuguchibanashi" that what had been described as the god of smallpox in
	N1-4-	previous studies, in fact was a child who had contracted the smallpox disease.
Genre Research Paper		
	Genre	Kesearcn Paper

URL

https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2021000003-20210091

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2021 年度 学事振興資金 (個人研究) 研究成果実績報告書

研究代表者	所属	経済学部	職名	教授	補助額	1,000 (特A)千円
	氏名	津田 眞弓	氏名 (英語)	Mayumi Tsuda		

研究課題 (日本語)

絵と文による表現から再考する草双紙史——黄表紙と合巻

研究課題 (英訳)

The History of kusazōshi Reconsidered from the Perspective of Illustration and Text Expression: kibyōshi and gōkan

1. 研究成果実績の概要

事業計画に従って、今年度は、黄表紙の絵・文の特質について考えた。成果は以下の通り。

- 1、所蔵機関が公開するデジタル画像を使ったデータベースの設計を行った。このデータベースの目指すところは、研究成果を盛り込み、かつこのジャンルの絵や文章を通史的に見るツールとなる形である。今後も引き続きデータベースの形を模索したい。
- 2、佐藤至子・ラウラ モレッティ編著の論文集に対して、黄表紙の持つ絵と文章の表現方法について考察した論文「Multimodality at work Kibyōshi」を提出した。具体的には、黄表紙の画風の変遷、一般に複雑とされる紙面の構造、作品の構造、次の時代の様式との違いについて述べ、特に、黄表紙の特徴である明るく楽しい作風の理由を同時代の文学思潮に基づいて指摘した。(出版時期は2023~24年頃を予定)
- 3、ライデン大学における国際的ワークショップ「Healing the People:Popularizing and Printing Medicine in Edo Japan」(コーディネーター:アンジェリカ コッホ)にて「疱瘡絵本が出版される時—十返舎一九『軽口噺』の再版から考える可能性」と題する発表を行う。申請時には、2021 年夏に開催されるはずだった研究発表会が、新型コロナウイルスの流行により、2022 年 5 月に延期されることとなった。従って本成果報告時には、まだ発表を終えていないが、発表原稿・スライドは準備済みである。具体的には、十返舎一九が作成した疱瘡(天然痘)の患者への見舞いの品として作られた疱瘡絵本『軽口噺』の再版状況から、麻疹流行との関わり、渓斎英泉が絵を担当した続編『子宝山』の出版年の修正、疱瘡に効くとされた半田稲荷の行事との関わりの可能性を指摘した。またその内容から、疱瘡神を描いた浮世絵として広く知られている歌川国芳の「為朝と疱瘡神」について、従来の研究で疱瘡神と説明されていたものが、罹患した子供であることを示し、通説に対する疑義を提示した。

2. 研究成果実績の概要(英訳)

In accordance with the project plan, this year I considered the characteristics of the illustrations and text of kibyōshi (the yellow cover books). The results are as follows.

- 1, I designed a database using digital images made available by the holding institutions. The goal of this database is to incorporate research results and to provide a tool for viewing illustrations and texts of this genre from a historical perspective. I will continue to explore the form of the database in the future.
- 2, I submitted a chapter entitled "Multimodality at work Kibyōshi," which discusses the kibyōshi genre's expression through both illustrations and texts. The content of the paper describes the changes in kibyōshi's illustration style, the structure of the pages, which is generally considered complex, the structure of the work, and the differences in style over time. In particular, the paper points out the reasons for the bright and joyful style characteristic of kibyōshi, based on the literary thought of the same period. (Anthology of research papers "the kusazōshi volume" edited by Yukiko Sato and Laura Moretti. Publication date is scheduled for around 2023–24.)
- 3, Presentation entitled "Smallpox Illustrated Books and Their Publication What we can learn from Jippensha Ikku's Karuguchibanashi "at the international workshop "Healing the People: Popularizing and Printing Medicine in Edo Japan" at Leiden University (coordinator: Angelica Koch. Postponed to May 2022 due to coronavirus). Based on the status of the reprinting of the smallpox illustrated book "Karuguchibanashi" created by Jippensha Ikku as a gift for patients with smallpox, the presentation pointed out the publication's relation to the measles epidemic, the correction of the publication date of the sequel "Kodakarayama" with illustrations by Keisai Eisen, and its possible relation to events at Handa Inari Shrine, which were believed to be effective against smallpox. In addition, regarding Utagawa Kuniyoshi's "Tametomo and the God of Smallpox," which is widely known as an ukiyoe picture print depicting the god of smallpox, I showed from the contents of this "Karuguchibanashi" that what had been described as the god of smallpox in previous studies, in fact was a child who had contracted the smallpox disease.

3. 本研究課題に関する発表								
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)					
津田眞弓	「Smallpox Illustrated Books and Their Publication — What we can learn from Jippensha Ikku's Karakuchibanashi」(「疱瘡絵本が出版される時—十返舎一九『軽口噺』の再版から考える可能性」)	Healing the People:Popularizing and Printing Medicine in Edo Japan	2022.5.21 (コロナウイルス感 染のため 2021 年 9 月より延 期)					